

奈良体育学会会報

第89号 発行 奈良体育学会

事務局：天理大学 体育学部 寺田和史研究室（〒632-0071 天理市田井庄町80）

<https://nspehss.org/> narajimukyoku@nspehss.org

ご挨拶：奈良体育学会大会開催にあたって

奈良体育学会 会員の皆様へ

奈良体育学会会長 中谷敏昭（天理大学）

秋も深まり日中と夜の寒暖差が大きく、冷え込みが厳しい季節がやってきました。新型コロナウイルス感染症の感染者数も低下傾向が続いておりますが、今後予想される第6波だけでなく、インフルエンザの感染防止対策も引き続き行う必要があるかと存じます。秋晴れの気持ちのいい日は、明るい気分で過ごしたいものです。

さて、会員の皆様には、日頃より奈良体育学会の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。前号でお知らせしましたとおり、12月19日（日）に奈良体育学会大会を天理大学体育学部キャンパスで開催いたします。シンポジウムでは、「奈良県における地域スポーツのこれから：学校と地域連携の課題と可能性」と題して、学校の働き方改革を踏まえた部活動の今後のあり方について、高橋豪仁先生（奈良教育大学）、大内淳也先生（奈良女子大学中等教育学校）、太田雅夫先生（天理大学）の演者に石坂友司先生（奈良女子大学）が加わり、奈良県が直面する課題と可能性について議論いただきます。また、一般発表では体育・スポーツ・健康各分野で9演題の発表があります。会員の皆様には是非ともご参加いただき、質疑応答を盛り上げていただければ幸いです。本来なら、終了後に演者や会員の交流を兼ねた懇親会を開催すべきですが、新型コロナ感染症拡大が終息していない状況ですので今回は見送らせていただきます。

令和3年度奈良体育学会大会のお知らせ

期 日：令和3年12月19日（日）

会 場：天理大学 体育学部（天理市田井庄町80） 6号棟4階・64C教室

64C教室へは階段の他、西側（天理駅と反対側）のエレベータもご利用できます。

休憩室：6号棟3階・63C教室

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。お車で天理大学体育学部への入構は禁止とさせていただきます。どうしてもお車でのご来場が必要な方は、体育学部正門から西に約350mの天理大学前駐車を御覧ください。

※万が一、新型コロナウイルス感染の急拡大等により施設使用が不可となった場合は、ご登録いただいております電子メールで開催の変更等をご連絡させていただきます。

共 催：奈良女子大学（健康なら21Step アップ事業）

協 賛：天理大学

<ご参加いただく方へ>

参加費：一般 1,000 円、大学院生等 500 円、学部生 無料(但し、参加には指導教員の承認を得てください。)

事前参加申込期限:令和 3 年 12 月 13 日 (月) 17:00 **※当日参加も受け付けます。**

☞ 学会大会事前申込ページ <https://nspehss.org/taikai/taikaiform>

☞ 令和 3 年度奈良体育学会大会専用メールアドレス(事務局お問い合わせ用) 2021taikai@nspehss.org

☞ 郵便振替・口座番号：(当座) 01000-2-28169 <加入者名：奈良体育学会>

※事前登録参加、当日参加にかかわらず、必ず受付(64C 教室入口)をお済ませのうえ、会場へお入りください。

大会プログラム

- 11:45～ 受付(64C 教室入口:6 号棟 4 階西側)
- 12:00～12:25 令和 3 年度奈良体育学会総会
- 12:30～14:46 一般発表
- 15:00～17:00 シンポジウム(一部公開)



学会大会事前申込ページ
QRコード

<発表者の方へ>

- ・発表形式はすべて Microsoft PowerPoint による口頭発表とします。会場の PC (Windows のみ) をご使用の方は、USB メモリ等でデータを持参していただき、出来る限り一般発表開始前にファイルを PC にコピーし、ご自身で動作確認を行ってください。コピーされたデータは学会大会終了後に直ちに消去します。ご持参の PC をお使いになる方は、HDMI 経由での映写となります。Macintosh をご使用の場合は、PC をご持参ください。
- ・動画等を使用される方は、必ずご持参の PC にてご発表ください。なお、ご自身・会場の PC に限らず動画やアニメーションについての動作・映写等の保証は致しかねます。動画・アニメーションをお使いになる方は、正しく再生されなかった場合の対応をご準備ください。
- ・発表原稿をご使用される方は、念のためプリントアウトしたものをご持参ください(「発表者ツール」使用不可の場合のご対応です)。
- ・発表時間は 10 分、討論時間は 4 分です。円滑な進行のため、発表時間は厳守してください。
- ・発表開始後 9 分に 1 鈴、10 分(発表時間終了時)に 2 鈴、討論時間終了時に 3 鈴の合図をします。
- ・**奈良体育学会研究年報掲載用抄録の提出をお願い致します【必須】。令和 4 年 1 月 28 日(金) 17 時〆切です。**
奈良体育学会研究年報用抄録フォーマット: <https://nspehss.org/kenkyu-nenpo>

<一般発表> 12:30～14:46 (発表時間 10 分、討論時間 4 分)

座長 藤原素子(奈良女子大学) 12:30～13:40

1 (12:30～12:44)

片側肢でのウェイトトレーニング種目遂行時の発揮パワーと競技水準との関係:陸上競技短距離・跳躍選手による検討

○山本樹¹, 山本大輔^{1,2}, 岩山海渡^{1,2}, 岩波健輔¹, 島村侑暉¹, 竹村龍星¹, 中谷敏昭^{1,2}, 寺田和史^{1,2} (1 天理大学大学院, 2 天理大学)

キーワード: 両側性機能低下、IAAF Scoring Tables、ユニラテラル・トレーニング

要旨: 大学陸上競技選手で短距離・跳躍を専門とする者を対象に、3 種の片側肢によるウェイトトレーニング種目の遂行能力(発揮パワー)と、競技成績及び競技に関連する身体パフォーマンスとの関係を検討した。

2 (12:44～12:58)

競泳レース間の交代浴が大学競技選手の泳パフォーマンスや循環機能に及ぼす影響

○金子竜大¹, 福井裕士¹, 周藤和樹¹, 寺田和史^{1,2}, 中谷敏昭^{1,2} (1 天理大学大学院, 2 天理大学)

キーワード: 交代浴、リカバリー、泳パフォーマンス

要旨: 競泳の試合会場では、水浸による疲労回復を容易に用いることが可能だが、回復効果の報告は少なく一致した見解は得られていない。そこで、競泳のレース間の交代浴が、泳パフォーマンスや循環機能、血中乳酸値、自覚的疲労感に及ぼす影響を検討した。

3 (12:58～13:12)

体幹伸筋群の筋力向上がレスリング選手の筋発揮能力に与える影響

○福井裕士¹, 金子竜大¹, 周藤和樹¹, 中谷敏昭^{1,2} (1 天理大学大学院, 2 天理大学)

キーワード：レスリング、体幹伸筋群、トレーニング

要旨：レスリング競技は、下半身を使用しているの攻防が禁止されているグレコローマンスタイルと全身が攻防に使用できるフリースタイルの2種目に分かれる。本研究では、フリースタイル選手の体幹伸筋群の筋力向上を目的としたトレーニングが筋発揮能力に及ぼす影響を報告する。

4 (13:12~13:26)

大学剣道選手の全身反応時間と面打突動作を用いた単純反応時間および選択反応時間の関係

○周藤和樹¹、福井裕士¹、金子竜大¹、中谷敏昭^{1,2} (1 天理大学大学院, 2 天理大学)

キーワード：剣道選手、全身反応時間、打突動作

要旨：大学剣道選手を対象に、全身反応時間と一足一刀の間合い、鏝迫り合いからの引き面、遠間からの面打突動作を用いた単純反応時間と選択反応時間の関係について検討したところ、一足一刀と引き技のいずれにも有意な相関関係が認められた。

5 (13:26~13:40)

新型コロナウイルス感染症拡大が高齢者のQOLと身体機能に及ぼす影響

○須川真奈江¹、星野聡子^{1,2} (1 奈良女子大学大学院, 2 奈良女子大学)

キーワード：新型コロナウイルス、QOL、身体機能

要旨：新型コロナウイルスの感染拡大による地域在住高齢者の心身状態を、質問紙調査による生活の質(QOL)と精神的健康、および、身体機能の実測調査から、パンデミックに対する個人の受け止め方の違いを検討する。

座長 井上邦子 (奈良教育大学) 13:50~14:46

6 (13:50~14:04)

組織キャンプにおける社会的スキルの定義と尺度の検討

○江川慶衣子¹、稲葉慎太郎^{1,2}、蓬田高正¹ (1 天理大学大学院, 2 天理大学)

キーワード：社会的スキル、組織キャンプ、尺度検討

要旨：社会的スキルに関する研究は多岐に渡っているが、その定義は一致していない。そこで本研究では、社会的スキル向上に寄与するとされる組織キャンプを対象に社会的スキルの定義と尺度の検討を試みた。

7 (14:04~14:18)

「性教育」の概念の固定化を巡る問題：保健体育

○永良芽依 (天理大学大学院)

キーワード：性教育、性の多様性、保健体育

要旨：保健体育での「性教育」は、身体的な成熟の発達や妊娠・出産などが主として扱われる。国際社会での性の多様性の理解という動向に照らせば、性教育での社会的な多様な性のあり方についても含まれるべきと考える。本発表では、性教育の概念が固定化された学習内容の歴史的変化に注目し、その問題点を明らかにする。

8 (14:18~14:32)

体育科教育における学習評価の歴史的変遷についての考察：学習評価の改善に着目して

○玉川佳奈妥 (天理大学大学院)

キーワード：体育科教育、学習評価

要旨：文部科学省によると学習評価は、「教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性を持った形での改善を進めること」が求められている。そこで本発表では、これまでの体育科教育の評価についての歴史的変遷を追いながら、どのような改善がなされてきたのかを明らかにする。

9 (14:32~14:46)

19世紀ブリテン諸島におけるバドミントンの普及に関する歴史的研究：1873~1875年の新聞広告とその概要について

○松井良明 (奈良工業高等専門学校)

キーワード：バドミントン、19世紀、イギリス

要旨：本研究では、19世紀ブリテン諸島内のバドミンントンの普及過程を検討する方法の一つとして、1873~1875年に発刊された新聞広告とその概要に着目した。その結果、1873年にはわずかだった広告記事が1874年には大幅に増加し、1875年にはさらに増加していたことが確認できた。

テーマ：奈良県における地域スポーツのこれから：学校と地域連携の課題と可能性

趣旨：2021年夏、コロナ禍で一年延期された東京オリンピック・パラリンピック競技大会が、さまざまな賛否をめぐる議論の中で開催された。1964年の東京大会がそうであったように、スポーツメガイベントの開催はトップアスリートの競技環境を向上させるのみではなく、一般の人びとのスポーツ欲求を高め、地域におけるスポーツ環境の見直しへと結びつく可能性を有している。加えて、スポーツ立国戦略やスポーツ基本計画などに記されるように、アスリートと地域スポーツとの関係性構築はオリパラ大会後の喫緊の課題となりうる。しかしながら、コロナ禍での大会開催や準備過程での混乱もあって、議論は全く広がりを見せていない。

このように先行きが不透明な中、学校における働き方改革を検討してきた「学校における働き方改革推進本部」が、オリパラ大会のレガシーとして、持続可能な学校部活動の促進のための改革案を提案している。そこでは2023年度以降、休日の部活動は段階的に地域に移行することが目指され、そのための地域人材の確保や保護者による費用負担などが方策として掲げられている。すなわち、教員の働き改革の文脈で、地域と学校の連携が急速に解決すべき課題として浮上してきた。

そこで、本シンポジウムでは、奈良県におけるスポーツにかかわる資源を確認しながら、地域クラブや学校を含んだ連携がどのように構築できるのかについて、その課題と可能性の両方を見据えた議論を行いたい。

シンポジスト：

高橋豪仁（奈良教育大学）

「大学、地域のスポーツクラブ、民間組織との連携について：バルシューレプログラムの展開を事例に」

大内淳也（奈良女子大学中等教育学校）

「高等学校における部活動改革と地域の連携について」

太田雅夫（天理大学）

「スポーツクラブからみた地域の連携について：水泳競技を事例に」

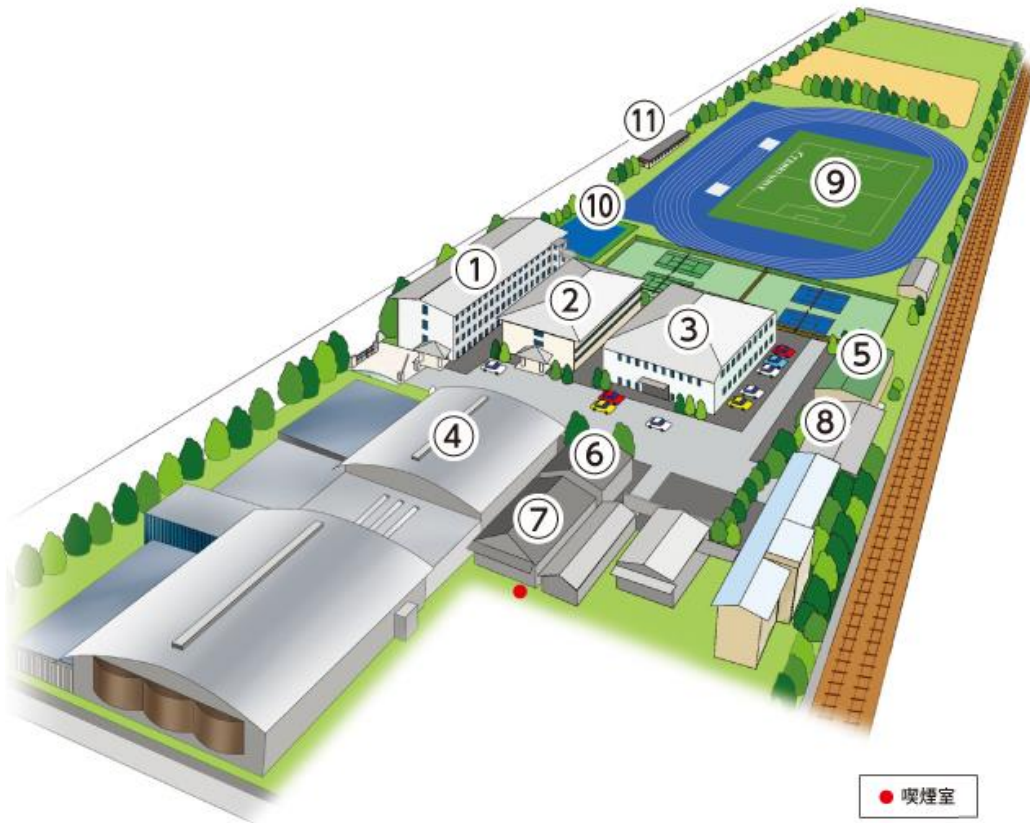
コーディネーター：

石坂友司（奈良女子大学）

以上敬称略

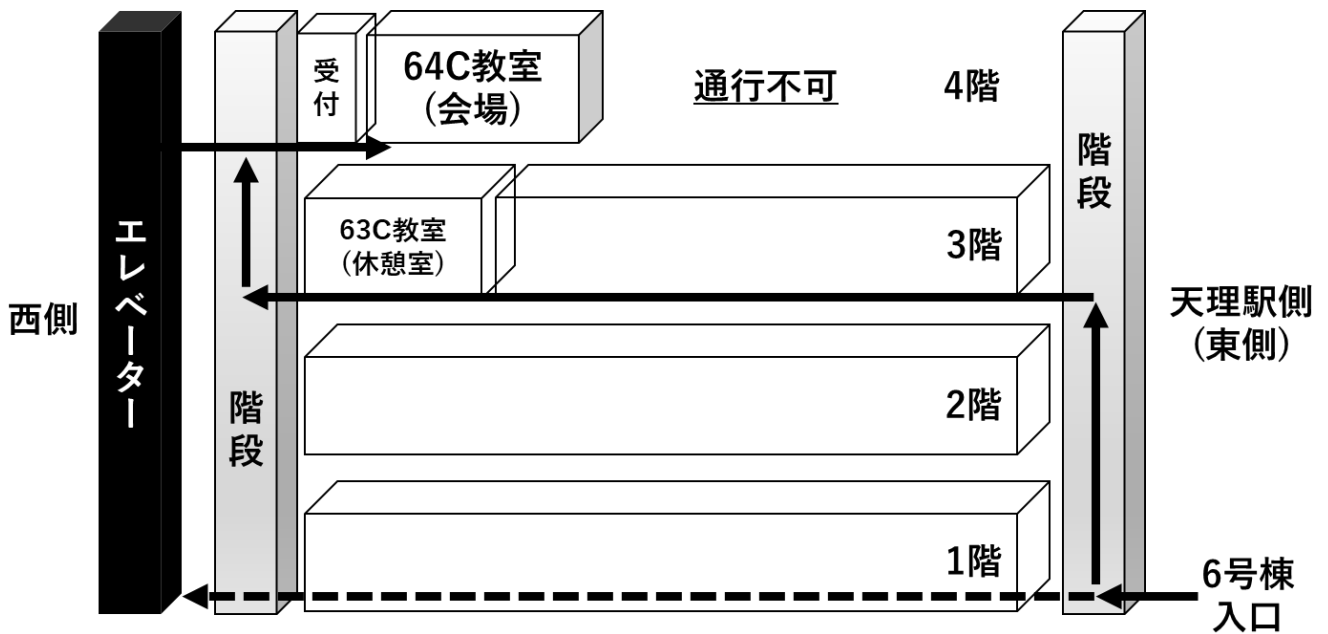
天理大学 体育学部へのアクセス





- ①6号棟 ②7号棟 ③武道館 ④総合体育館 ⑤第3体育館 ⑥学生ホール ⑦食堂 ⑧クラブハウス
 ⑨グラウンド ⑩多目的コート ⑪アスレチックジム

体育学部 6号棟



会場(64C教室)へは、6号棟入口の階段で3階まで上がり、廊下を通過して反対側の階段で4階へ、または西側のエレベーター(建物外にあります)で直接4階へお越しください。東側からは64C教室に入れません。

奈良体育学会事務局よりお知らせ

【重要】メールアドレスご登録のお願い

今後、学会からのお知らせは、原則として電子メールによる配信とさせていただきます。これまでに数回メールをお送りしていますが、いずれも届いていない方につきましては、別途、学会 HP から、または直接、学会事務局 (narajimukyoku@nspehss.org) まで、必ずメールアドレス登録のご連絡をお願いいたします。

【研究年報への原稿投稿のご依頼】

奈良体育学会では、会員の皆様からの「奈良体育学会研究年報」への投稿をお待ちしております。学会大会で発表していない論文も、「誌上发表論文」として掲載します。なお、筆頭著者は奈良体育学会会員資格を持つ者に限ります。なお、財政上の理由で、今年度より全会員に対する研究年報の冊子での配布は取りやめます。今後、研究年報は学会 HP にアップロードしていく予定です。会員の皆様にはそちらからダウンロードしていただくようお願い致します。また、研究年報巻末に記載の学会活動(会報)、会則、内規等につきましても、今後は学会 HP にて閲覧していただく予定です。

締切：令和4年1月28日(金)17時

提出先：電子メール(添付ファイル)による。

奈良体育学会事務局 天理大学体育学部 寺田和史宛 (E-mail: terada@sta.tenri-u.ac.jp)

<誌上发表論文書式>

*A4用紙、40字×40行、一段組、図表ともで4~6枚、上下左右の余白を20mmとしてください。(詳細は過去の奈良体育学会研究年報をご参照下さい。)

*今回より、原稿はWordとそれをPDF形式で保存した2種類のファイル(WordとPDF)にてご提出ください。原稿は、モノクロでご作成ください。また、原則としてPDFファイルに表示されている内容がそのまま年報に掲載されますので、ご提出の前に必ず体裁等をご確認ください。カラー表示をご希望の方は、一部冊子作成の際にカラー印刷にかかった費用を実費徴収させていただきますことがありますので、事前にお問い合わせください。論文等は、奈良体育学会研究年報投稿規定ならびに体育学研究(日本体育学会)投稿規定・投稿の手引きに準じてご作成ください。学生・大学院生の方は、必ず指導担当教員等の指導を受けてから投稿して下さい。

<発表抄録書式(今年度の大会発表者用)>

用紙A4で1枚(図表込み)、本文は2段組でお願いします。文字フォントは、タイトル14ポイント、氏名・所属11ポイント、本文は9ポイントで記載をお願いします。また、キーワード(9ポイント)を所属と本文の間に3語で入れてください。なお、原稿作成見本および詳細は下記のURLにあります。その他の原稿の様式、提出方法、提出ファイルの種類等は<誌上发表論文書式>と同様です。

奈良体育学会研究年報用抄録フォーマット: <https://nspehss.org/kenkyu-nenpo>

日本体育・スポーツ・健康学会から自動的に年会費が引き落とされない会員の皆様へ

令和2年度の年会費をお納め下さい。年会費は1,500円です。なお、2年続けて年会費を納入しない正会員は退会扱いとさせていただきます。

【年会費振込先】 郵便振替・口座番号：(当座)01000-2-28169 <加入者名:奈良体育学会>